様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　３ 日現在

機関番号：３４４１６
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１８７０４

研究課題名（和文）総合的な社会的信頼研究の展開　－ディペンダビリティ心理学創出の挑戦－

研究課題名（英文）The Development of Comprehensive Social Trust Research -The Challenge of Creating Dependability Psychology

研究代表者
林　直保子（Hayashi, Nahoko）

関西大学・社会学部・教授

研究者番号：００３０２６５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究のもっとも大きな成果は、潜在的態度としての社会的信頼の測定方法を提案したことにある。社会的信頼の実証研究は、質問紙調査、あるいは実験による個人の社会的信頼感、社会的信頼性の測定を基礎として行われてきたが、これらの測定に関しては、信頼性・妥当性の観点や社会調査への適用可能性に関して課題があることが指摘されていた。これらの課題を突破できる可能性のある手法として、本研究では、潜在連合テスト(IAT)に着目し、社会的信頼をめぐる態度測定IAT（信頼IAT）の新規開発を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
従来の社会的信頼の実証研究では、人々が自ら認識している態度である顕在的態度としての信頼のみを測定してきた。これに対し、本研究の成果である信頼IATを用いることで、本人が意識していない態度（潜在的態度）としての信頼を測定することができるようになった。すなわち、調査の回答者が自らを信頼感の高い人間として提示するかもしれないという問題を回避した上で、信頼研究を行うことが可能となった。

研究成果の概要（英文）：The most significant achievement of this study lies in proposing a method for measuring social trust as a latent attitude. Empirical research on social trust has traditionally relied on questionnaire surveys or experiments to measure individuals' sense of social trust and social trustworthiness. However, there have been challenges regarding the reliability, validity, and applicability to social surveys of these measurements. In addressing these challenges, this study focuses on the Implicit Association Test (IAT) as a method with the potential to overcome them and introduces a novel development: the Attitude Measurement IAT for social trust (Trust IAT).

研究分野：社会心理学

キーワード：信頼　信頼性　潜在連合テスト　ブランド　ブランディング　地域文化資源

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)従来の信頼に関わる心理学的研究は信頼する側の意識、すなわち、「信頼感」の研究を中心としていた。本研究は、行為者の「信頼性」の生成と、それに対応する形での信頼感の醸成を同時に考慮する研究へと展開すべきとの認識に基づきスタートした。

(2)社会的信頼に関する実証研究の成果が注目を集めてきた一方で、信頼の測定における問題が認識されてきた。一般的信頼という同一の概念を測定しているにもかかわらず、異なる測定法で測定された指標間の相関は低いことが指摘され、また、調査における信頼の測定では、社会的望ましさ等の影響が排除できないという問題があった。本研究開始の段階で、信頼の測定に伴うこれらの限界を克服することが必須と考えらえた。

２．研究の目的

(1)　本研究では、信頼に関わる心理学研究をディペンダビリティの概念のもとに再整理することを目的とした。

(2)　本研究ではまた、信頼の新しい測定方法の開発を目指した。社会的信頼の実証研究は、質問紙調査、あるいは実験による個人の社会的信頼感、社会的信頼性の測定を基礎としている。しかしながら、これらの測定に関しては、信頼性・妥当性の観点や社会調査への適用可能性に関して課題があることが指摘されていた。これらの課題を突破できる可能性のある手法として、潜在連合テスト(IAT)に着目し、社会的信頼をめぐる態度測定 IAT（信頼IAT）の新規開発を企図した。

３．研究の方法

(1)　申請者らのそれまでの研究活動においてネットワークを築いていたコミュニティ（東日本大震災被災地）において、復興に向けた活動におけるコミュニティネットワークの信頼構造について、地域の NPO 法人に対し、聞き取り調査を行った。

(2) 本研究で行ったブランディングに関する理論的検討から、特定のブランドの確立は、当該ブランドが社会的信頼の指標との間に心理的連合をもつかどうかということと全く同型の構造をもつ課題として見なせるということが明らかになった。この理論的整理を実証的にも補強するため、200 年に近い歴史を持つ事業者へのインタビューを行った。

(3)新型コロナウイルスの影響で、実験室実験の実施が困難となった 2021 年度には、新型コロナウイルスの影響を受けない方法として、インターネット調査を行うこととした。具体的には、地域への愛着、および地域文化への興味が、そこに暮らす人々へのカテゴリー的信頼を育むかどうかを計量的に検討する目的のため、大阪府在住の男女 310 名に対して、調査を実施した。

(4) 信頼の新しい測定方法の開発

①音声版 IAT の開発

従来の社会調査ではこれまで、自己報告型の質問を通して、社会意識の測定を行うことが通例であった。しかし、この方法では、回答にさまざまなバイアスが含まれる可能性がある。本研究では、このような方法の限界を克服すると期待され、社会心理学分野で盛んに研究さ

れてきている潜在的態度の測定方法（潜在連合テスト：IAT）を用いて信頼の測定を行うことを目指しているが、それに先立ち、先行研究の蓄積のある「虫－花」課題を用い、1）既存の IAT と顕在指標の間の関係の整理、2）集合調査等で利用可能な音声を利用した新版 IAT（以下、音声版 IAT）の提案と課題の整理、の 2 点を目的とした実験を行った。

②信頼 IAT の開発

①で新たに開発した音声版 IAT を用いて、社会的信頼をめぐる態度測定 IAT（信頼 IAT）の新規開発を企図し、実験を行った。この実験では、従来の研究で用いられてきた紙筆版 IAT と新規に開発した音声版 IAT の 2 種類の IAT、および場面想定法による信頼ゲーム、および信頼感尺度の 2 種類の顕在的態度の測定を行った。

③音声版・信頼 IAT の改良

②で行った実験の結果を踏まえて、音声版・信頼 IAT の改良版作成し、新たな実験を行った。より具体的には、音声版 IAT の音声提示の速度をランダムかのように変化させる新型・音声版 IAT の信頼性を検討した。

４．研究成果

（1）コミュニティネットワークの信頼構造

NPO 法人へのインタビューの結果、被災当初の地域内の関係性が変化し、さらに、復興が具体化するにつれて行政への信頼感が変化する中で、コミュニティネットワークの信頼構造が曖昧化しつつある現実の一端を見てとることができた。一方、こうした状況を維持するために、信頼構造の維持に対して積極的に働きかけ続ける主体もあり、こうした働きかけがコミュニティネットワークをポジティブネットワークとして機能させる核となっている可能性が認識された。

（2）ブランド維持と信頼構造

老舗事業者へのインタビューの結果、顧客からの信頼感を維持するために信頼性を担保することの困難さ、費用の高さを認識するとともに、ブランドを維持するコストが信頼感を維持する信頼性担保のコストであることが経験的にも確認された。一方、聞き取りと並行して行った理論的検討から、信頼性の担保だけでは信頼感の維持、あるいはブランドの維持には十分ではなく、こうした信頼性がブランドと連合し続けるような仕組みの導入が必要であることも分かってきた。これらの一連の検討から、社会的信頼感を測定する実験の設計において、商品ブランドへのイメージ測定の技法が援用できることが認識された。このことから、（4）に記載する IAT の開発に注力することとなった。

(3) 地域文化へのコミットメントと地域の人々への信頼感の相互促進関係

本研究では、地域への愛着、および地域文化への興味が、そこに暮らす人々へのカテゴリー的信頼を育むかどうかを、大阪を対象として計量的に検討した。t-SNE を用いた解析の結果、大阪文化への興味は、大阪文化へのポジティブな評価を伴う場合にのみ、大阪人への信頼を生み出していることが分かった。また、t-SNE の分析結果を基礎として共分散構造分析を行った結果、大阪への愛着は大阪人への信頼を促進していることが明証された。

(4) 新しい信頼の測定方法の開発

①音声版 IAT の開発

実験の結果、既存の IAT 手法に関して、IAT と紙筆版 IAT の順序が大きな影響を与えており、紙筆版 IAT が先に行われたときのみ、IAT と紙筆版 IAT は相関を有する。また、この時のみ、紙筆版 IAT は顕在指標と相関を有するという結果が得られた。また、音声を用いた新版 IAT に関しては、いくつかの問題点が明らかになったが、それらの点を改善すれば、潜在連合を測定するあらたなツールとなると考えられる。

②信頼 IAT の開発

紙筆版・信頼 IAT と音声版・信頼 IAT の二者を開発した結果、前者において、場面想定法で測定された委任・分配額に対する予測力が高いことが示された。特に、社会的信頼性に対応する分配額の予測に関して、紙筆版・信頼 IAT は顕在的測度には見られない強い予測力を示した。このことから、今回開発した信頼 IAT は、社会的信頼に関わる行動をよりよく予測する新たな測度となる蓋然性が高いといえる。一方で、新規に開発した音声版 IAT では、強連合において、大多数の実験参加者が 100%に近い正答率となってしまう、オフ・スケールの問題があることが明らかになった。

③信頼 IAT の改良

本研究では、音声版 IAT の音声提示の速度をランダムかのように変化させる新型・音声版 IAT を用いて実験を行った。その結果、新版・音声 IAT では、オフ・スケールの問題を回避することができており、強連合と弱連合の間の差をより明確化することに成功した。また、オフ・スケールの問題を回避できた結果、紙筆版 IAT と音声版 IAT は、因子分析において、顕在指標による測定と異なる独自の軸を構成するようになり、信頼に関する潜在連合が、リッカート式尺度などで測定される態度とは別の次元として測定することが可能となった。これらを通じて、新型・音声版 IAT は態度測定に関する改善がなされていることが明らかになった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計6件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 林直保子	４．巻 2
２．論文標題 地域文化資源の鑑賞が地域への愛着と信頼に及ぼす影響―地域文化資源としての大坂画壇に焦点を当てて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 社会的信頼研究	６．最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 与謝野　有紀・林　直保子	４．巻 55
２．論文標題 IAT、紙筆版IATの特性の再検討および音声版IATの提案	５．発行年 2023年
３．雑誌名 関西大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 与謝野　有紀・林　直保子	４．巻 55
２．論文標題 信頼感、信頼性に関する潜在的態度測定の試み －信頼IATの開発－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 関西大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 45-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 林　直保子・与謝野　有紀	４．巻 55
２．論文標題 地域への愛着と信頼 －大阪への愛着と「大阪人」へのカテゴリー的信頼に焦点をあてて－	５．発行年 2024年
３．雑誌名 関西大学社会学部紀要	６．最初と最後の頁 79-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 与謝野　有紀	４．巻 4
２．論文標題 音声版IATの改善とその効果の検証	５．発行年 2024年
３．雑誌名 社会的信頼研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 林　直保子	４．巻 4
２．論文標題 IAT、顕在指標の測定順序効果の検討	５．発行年 2024年
３．雑誌名 社会的信頼研究	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	与謝野　有紀 (Yosano Arinori) (00230673)	関西大学・社会学部・教授 (34416)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関